

令和6年度第3回ISO上層委員会報告会

第125回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏)(2026)
ANSI (米)(2026)
BSI(英) (2024)
DIN(独) (2026)
JISC(日)(2025)
SAC(中) (2025)

グループ2

SIS(スウェーデン) (2024)
SA(オーストラリア) (2024)
ABNT(ブラジル) (2025)
UNI(イタリア) (2025)
KATS (韓国)(2026)

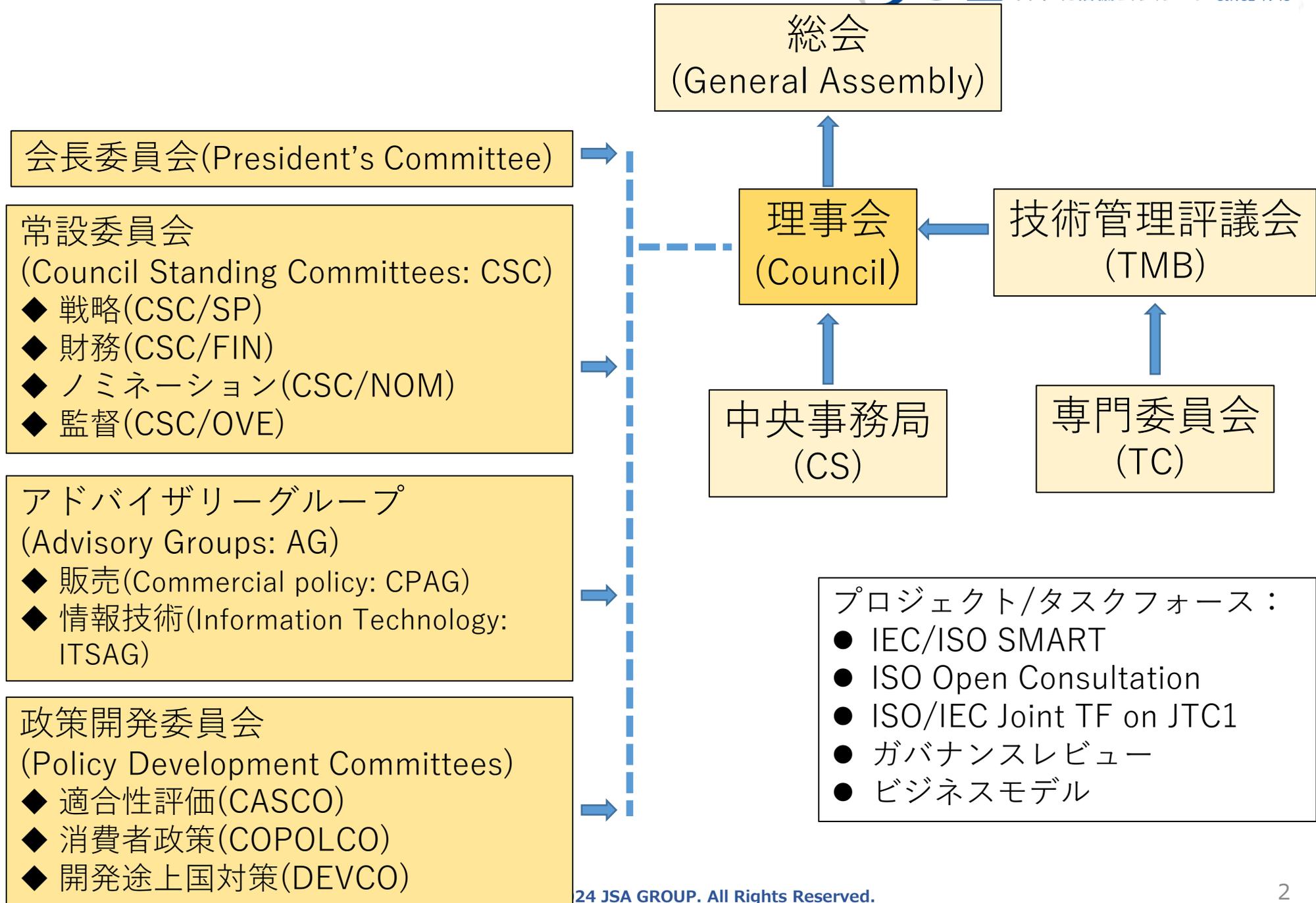
グループ3

DSM(マレーシア) (2024)
TSE(トルコ)(2024)
EOS(エジプト)(2025)
SASO(サウジアラビア) (2026)
SSC (シンガポール)(2026)

グループ4

KEBS(ケニア) (2024)
INTECO(コスタリカ) (2025)
INNORPI(チニジア)(2026)
BBSQ(バハマ) (2026)

ISO Council (理事会)



第125回 ISO理事会 及び 関連会合

2024年9月9日	
12:45-14:15	ビジネスモデルTF
2024年9月10日	
16:30-18:30	理事会/TMBワーク ショップ
2024年9月11日	
09:00-18:00	理事会
2024年9月12日	
13:30-18:00	総会
2024年9月13日	
08:00-10:00	ガバナンスレビュー
11:30-12:30	SMART-SG

- 理事会及び関連委員会の会議が、2024年9月9日から13日にかけて、対面で開催された
- 議事を重要/緊急（カテゴリB）とその他の項目（カテゴリA）に区分け。カテゴリAは説明／議論を行わない
- 本資料では、理事会での主な議論、重要事項をご報告する

第125回ISO理事会 議題

2	事務総長報告	16.2	CPAG及びITSAGメンバー
3	IEC/ISO SMART規格 進捗報告	16.3	DEVCO議長（2025-2027年）
4	地域及び準地域パートナーシップ協定	17	ISO戦略2030の実施 実施計画
5	ドナー資金調達ポリシーの見直し	18	WSF及びISOコンパニオンに関する会長提案のフォローアップ
6	調達ポリシー実施	19	ISOオープンコンサルテーションパイロット実施
7	法規に組み込まれている規格の理事会承認済みポータル年間査定	20	サステナビリティ関連事項
8	リーダーシップ及び管理開発（LMD）査定	20.1	サステナビリティに関する進捗報告
9	124回理事会議事録	20.2	戦略的パートナーシップ進捗報告
10	前回理事会決議のフォローアップ	21	ビジネスモデル見直し
11	理事会傘下会議体の2025年業務計画	22	欧州司法裁判所判決最新情報
12	2027年ISO総会の日程と場所	23	2024年の年間リスク見直し
13	2026年ISO理事会の日程と場所	24	販売ポリシー関連事項
14	ISO総会ホストのプロセス	24.1	ISOコンテンツの用途別ライセンスに関するパイロットプロジェクトの提案
15	ガバナンスレビュー進捗	24.2	POCOSA附属書7&8見直し
16	指名	25	その他
16.1	ISO財務幹事（2027-2027年）		理事会-TMBワークショップ

我々の展望 Our vision

Making lives easier, safer and better
生活をより楽に、より安全に、より良く

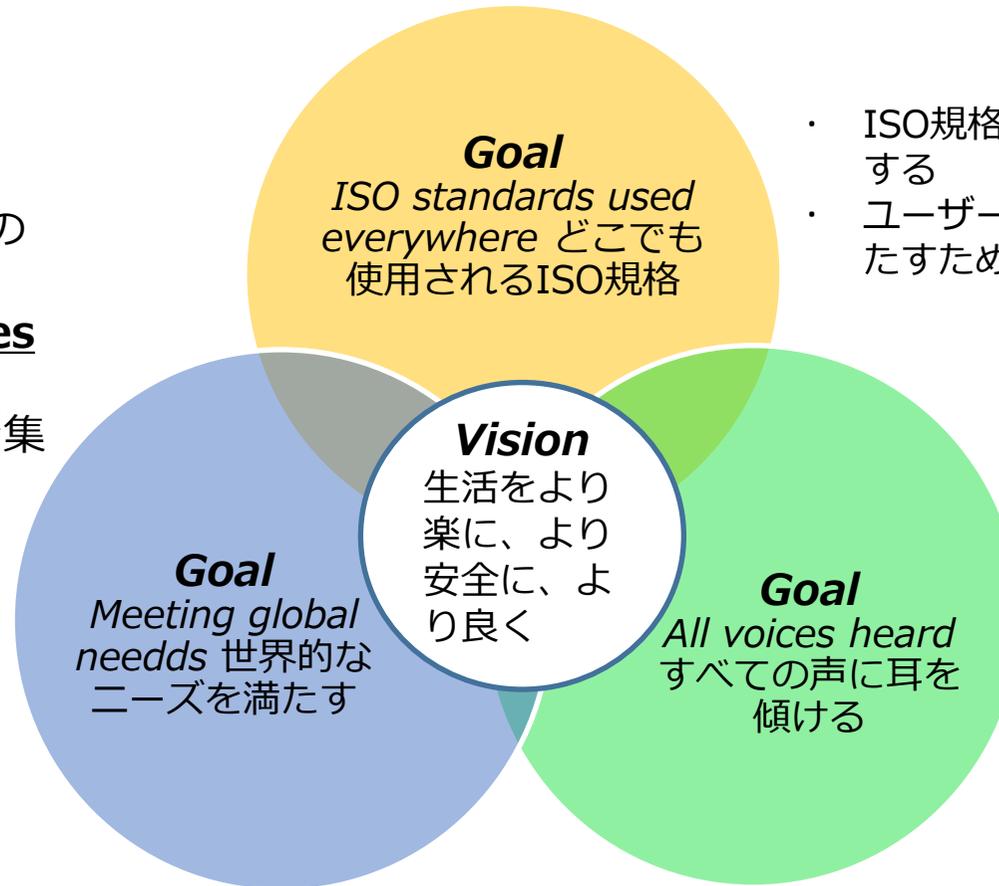
◆ 我々のゴール Our goals

展望（Vision）達成のための3つのゴール

◆ 我々の優先事項 Our priorities

6つの優先事項。ゴールを達成し、影響力を最大にするため、資源を集中

- ・ 市場で必要な時にISO規格を提供する
- ・ 国際標準化の将来の機会を捉える
- ・ ISO規格を通じ環境持続可能性を推進する



- ・ ISO規格の便益を実証する
- ・ ユーザーのニーズを満たすために革新する

- ・ 能力開発を通じてISO会員を強化する
- ・ ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

<https://www.iso.org/publication/PUB100364.html>

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5150.pdf

ご参考～2024実施計画

ISO Standards Used Everywhere どこでも使用されるISO規格		
Benefits of Standards		
Research Projects -Societal impacts of standards -Standards and regulations -International Standards and International Agreements	Research Frameworks (TBD)	Education -EaS Materials' Repository -EaS Network
Digital Evolution		
IEC/ISO SMART	Online Standards Development (OSD)	New technologies and AI for existing solutions (TBD)

Meeting Global Needs 世界的なニーズを満たす		
Future Challenges & Market Needs		
ISO Open Consultation and pilot	Foresight Framework	Actionability of New topics for TCs (TBD)
Improved Development Processes		
Committee strategy management	Optimize deliverables	
Environmental Action		
Climate action	Biodiversity (TBD)	Plastic pollution (TBD)
All Voices Heard すべての声に耳を傾ける		
Supporting ISO Members		
ISOlutions evolution	Commercial support	
Diversity and Inclusion		
Gender Action Plan 2022-2025	Young Professionals	Stakeholders' participation in standard development
Language barrier (TBD)		

議題2～事務総長報告

<主な報告事項>

■ 社会情勢

- 世界経済の見通し
- 気候変動対策にとり重要な時期にある

■ ISO戦略2030

戦略実施の成功のカギ：「ガバナンスレビュー」、「ビジネスモデル」、「ISOメンバーの積極的参加」

- 規格及び規格開発の将来
 - オープンコンサルテーション
 - OSD (Online Standard Development)
 - SMART
- 持続可能性
 - ISO気候対策
 - ジェンダーに関するデータ収集：女性、若手が非常に少ない

■ 運営状況

- 財務状況、技術活動 (technical activities) など

■ 主な活動

- メンバーとのコミュニケーション、地域グループの会合等への参加
- 他の国際組織との関係強化/交流：IEC、ITU、その他

議題19 ISO Open Consultation パイロットプロジェクト

<背景>

- パイロットプロジェクトへの提案募集（2024年4月～5月）
 - 3件の応募：DIN（ドイツ）、IMANOR（モロッコ）、KATS（韓国）
- CS及びTFで評価し、理事会に推奨
 - DIN、KATS：採用
 - IMANOR:採用見送り

<現状>

- 理事会（9月）承認、パイロットプロジェクト開始
 - DIN：資源効率の高いソフトウェア（Resource-efficient software）
 - ISOメンバー向けブリーフィング：9/30&10/1
 - KATS：測位、ナビゲーション、タイミングサービス（Positioning, Navigation and Timing services）

(決議53/2024)

ISO オープンコンサルテーション

- ISO戦略2030／優先事項「国際標準化の将来の機会を捉える (*capture future opportunities for standardization*) 」を達成するための4レベルのプロセス

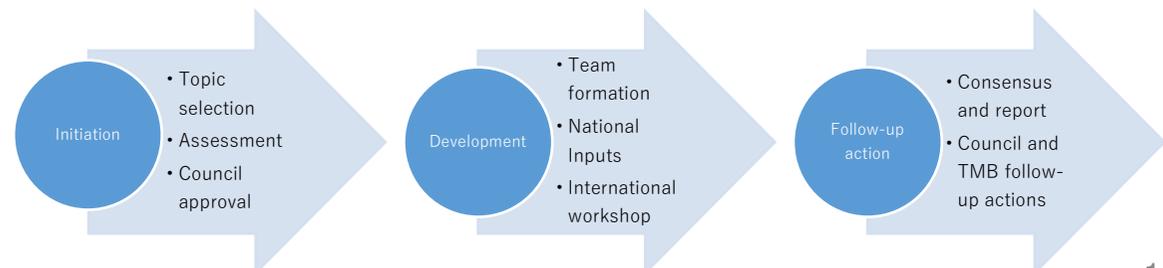
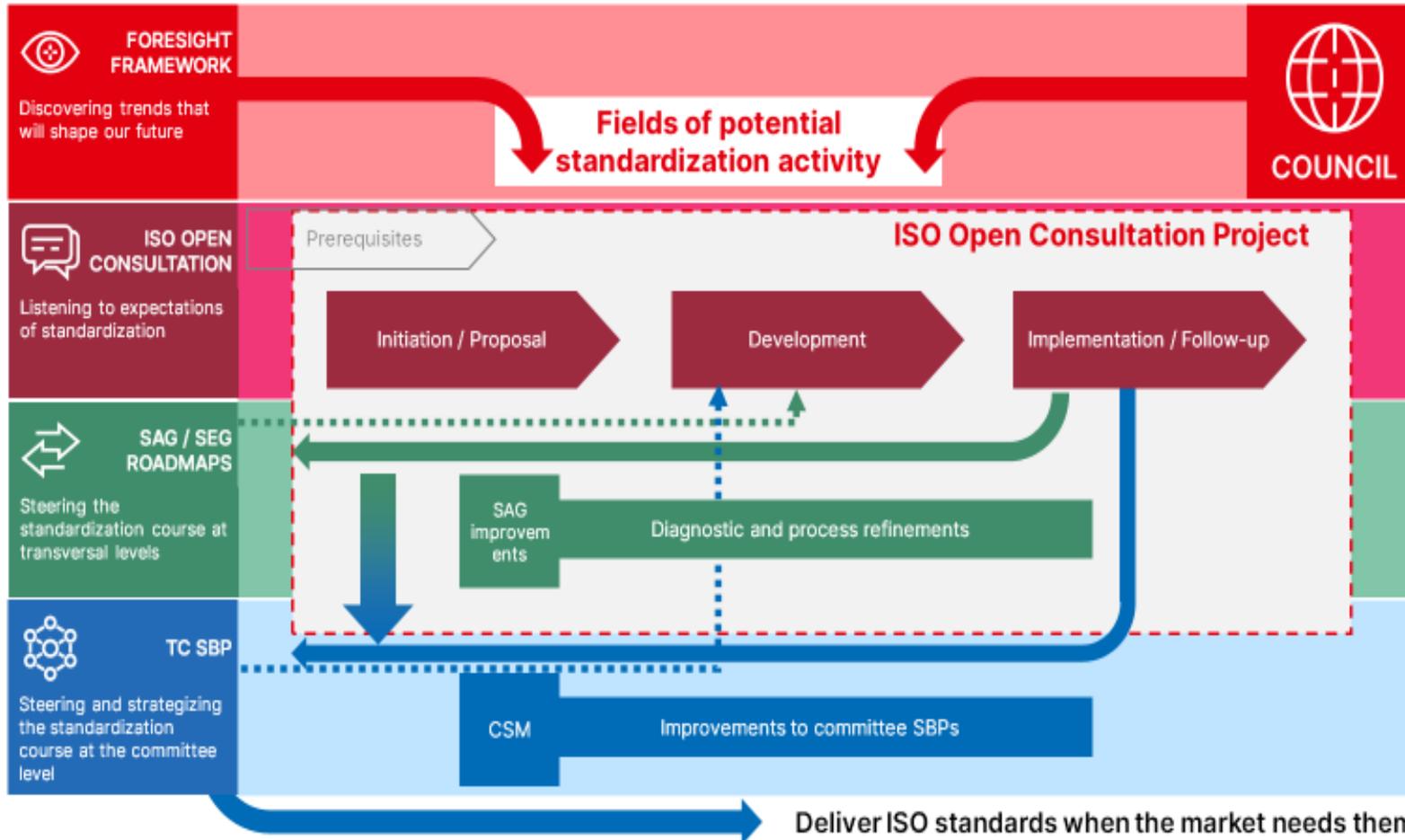
標準化展望フレームワーク	トレンドを特定し標準化にどのような影響があるか、標準化活動の可能性のある分野を特定する
オープンコンサルテーション	ISO外のステークホルダーを巻き込み、標準化が限定的な分野における標準化の期待をとらえる
SAG/SEG	ISO内の専門家が横断的に集まり重要なトレンドや相互に関連する事項に取り組む
委員会戦略マネジメント (SBP)	マーケットトレンド／ニーズをよりよく捉えワークプログラムに落とし込む

- 3段階のプロセス

- Initiation/proposal—ISOメンバー、国際機関、理事会/TMB/PDCなどから提案
- Development—ワークショップ等により検討、取りまとめ
- Follow-up action—白書発行、SAG/SEG設置、TC設置、規格開発、等々



ISO Open Consultation



議題20.1～ 持続可能性（サステナビリティ）に関する進捗

<これまでの経緯>

- サステナビリティユニットを設置（2022年）
 - ISOは「持続可能性」に志高く (high ambition) 取り組む
- 持続可能性プログラム

ISO規格を通じ環境持続可能性を推進する

環境持続可能性

- 気候対応
- 生物多様性
- プラスティック汚染

ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

多様性&包括性

- ジェンダーアクションプラン
- 若手専門家プログラム
- 規格開発へのステークホルダー参加

<環境持続可能性>

- 規格開発
 - 600以上の規格を気候対策に関連するとしてマッピング、優先規格を81特定（エネルギー、運輸、建設分野）。気候科学のアドバイザーを雇い、規格改訂を支援。45規格を見直し
 - CASCO規格制改訂

議題20.1～ 持続可能性（サステナビリティ）に関する進捗

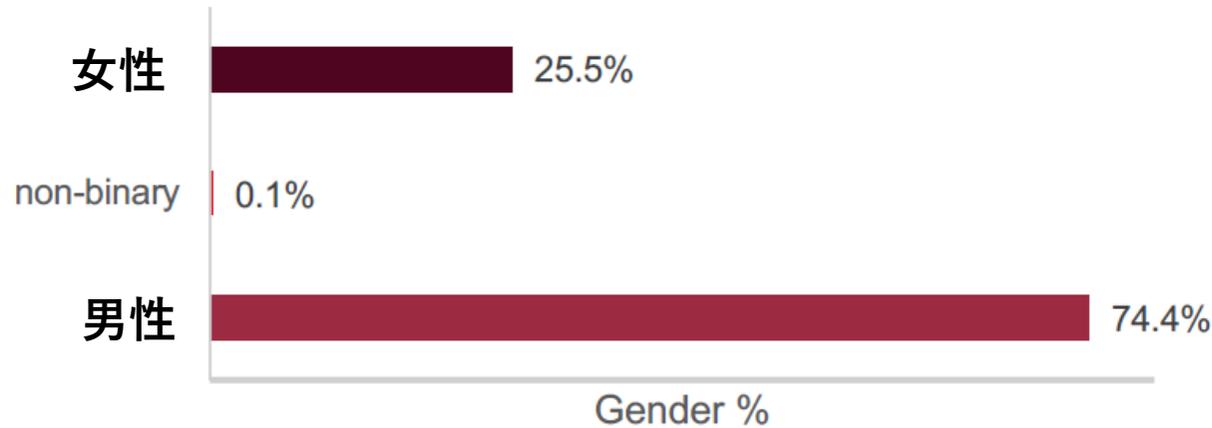
<環境持続可能性>

- メンバーの巻き込み/キャパシティビルディング
 - 気候チャンピオンネットワーク:56のNSBから97名のチャンピオンが参加
 - APDCを通じ継続的な支援
- コミュニケーション
 - ウェブサイトで関連規格を提示
 - 循環経済に関するISOとして初めての規格のキャンペーン
- 戦略的パートナーシップの構築
 - COP29等へ参加
- ISOネットゼロ検討開始
 - データ収集及び収集メカニズムの精査（2024年）
 - 削減計画の設定（2025年）
 - 実施開始（2026年）

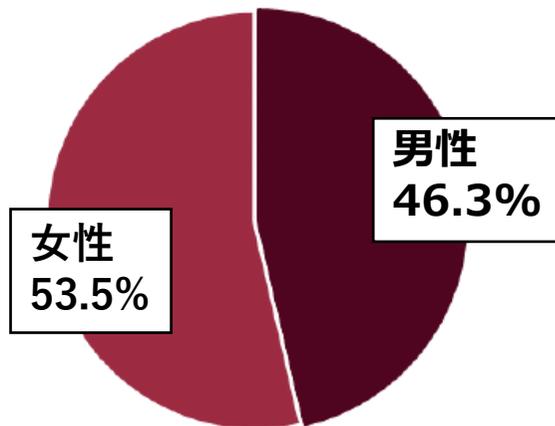
<多様性&包括性>

- TCにおけるジェンダー/年齢に関するデータ収集
- ジェンダー対応規格に関するガイダンス

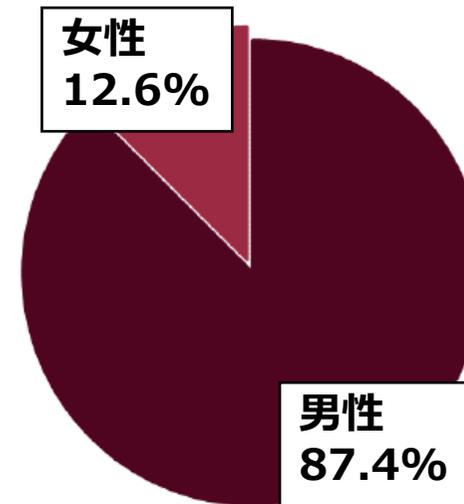
委員会エキスパート



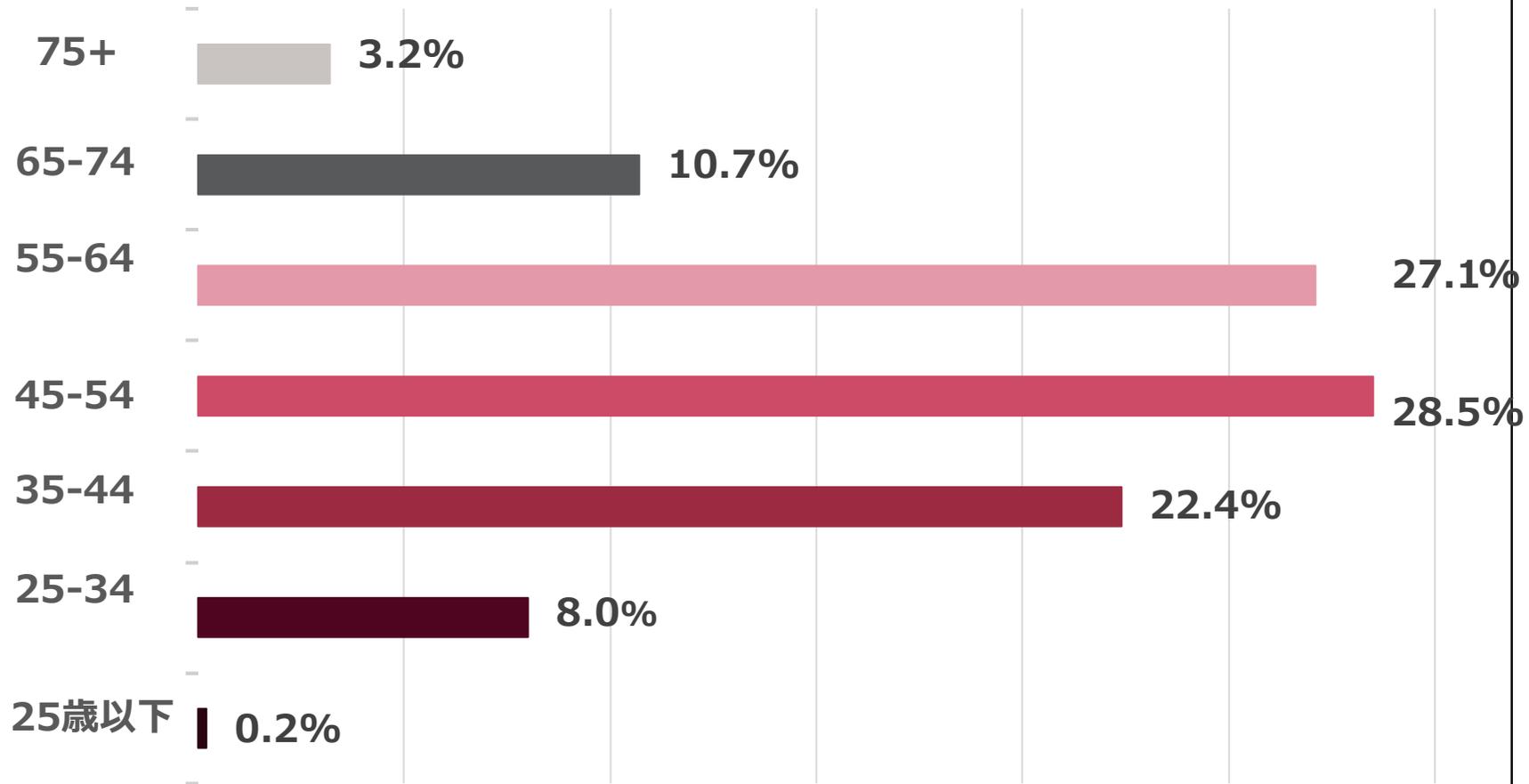
委員会マネジャー



議長



エキスパートの年齢



議題20.2～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

<背景、経緯>

- 持続可能性に関連する団体との戦略的パートナーシップ構築に向け、事務総長が取り組む（2023年2月）
- パートナーシップの目的：国際規格を活用し、個々の能力を超えて影響を増幅するような協力関係を通じて、気候変動対策と持続可能性への取り組みを強化する

<主な進捗>

- UNDP
 - ダブルロゴのジョイント規格発行のための合意を締結（総会時に調印式）
 - SDGsマネジメントに関するガイドライン（PAS）の発行(9/12)、SDGsMS規格の開発を予定
 - サステナビリティ情報開示/管理ハブのパイロットに参加（6か国）

議題20.2～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

<主な進捗>

■ GHGプロトコール

- PSDO協力協定を検討中
- GHGの用語、測定、開示に関する規格の統一を目指す

■ WBCSD

- CE、ネットゼロ、ESG、サステナブルファイナンスなど特定のトピックスで実践的な協働を展開

■ UNFCCC COP29への参加、「Standards Pavillion」開設準備中

■ IPCC オブザーバー資格取得

PSDO: Partner Standard Development Organization

WBCSD: World Business Council for Sustainable Development 持続可能な開発のための世界経済人会議

議題21～ビジネスモデルの見直し

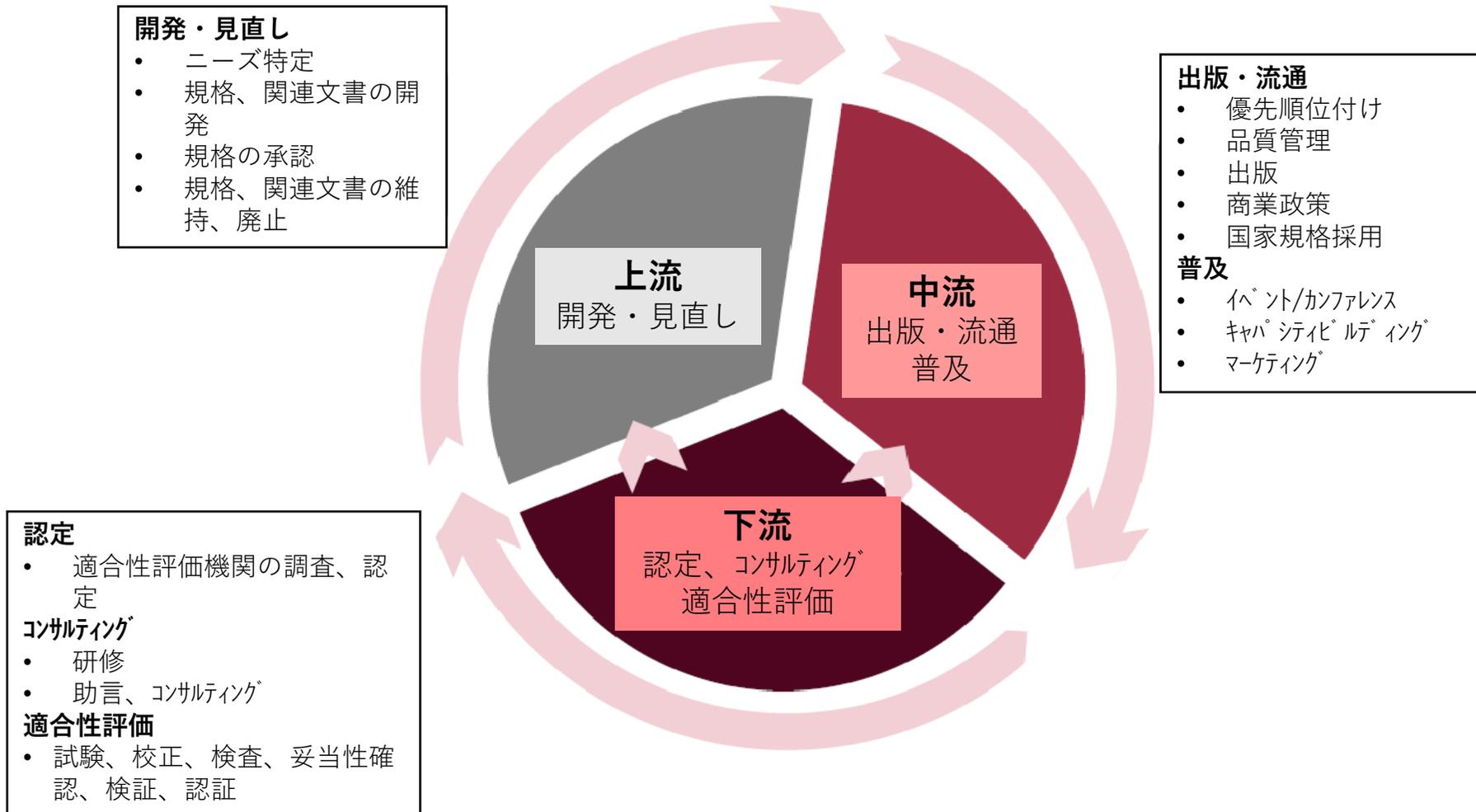
<経緯>

- CSC/FINが長期的な観点でビジネスモデルの見直しを行うことを決定（2023年6月）

- 理事会ワークショップを開催（2024年2月）
 - ISOのバリューチェーン：上流、中流、下流
 - ISOメンバーの3つの類型
 1. 政府系組織、規格の出版・販売
 2. 民間組織、収益は主に適合性評価や研修から
 3. 民間組織、収益は主に規格の出版・販売から
 - ISO/CSの機能の4つの要素
 1. convenor: ISOファミリーの牽引
 2. shaper: 標準化アジェンダの推進
 3. supporter: メンバー支援
 4. service provider: 規格開発/販売のツール、インフラ提供

- ビジネスモデルタスクフォース（BMTF）設置を決定（2024年2月）

ISOのバリューチェーン



議題21～ビジネスモデルの見直し

<これまでの進捗、今後の活動>

■ 6つのワークパッケージ

- ISOシステムのビジネスモデル：SMART、上流、中流、下流
- 短期的な収益増加
- ISO/CSのビジネスモデル

(決議54/2024)

■ ISOメンバー向けにオンラインセッション開催（5月）

■ ISO総会2024でセッションを実施

- 上流、中流、下流のPros and Cons（長所/短所）をグループディスカッション
- Zone1- 上流：ISOolutionsのマネタイズ
- Zone2- 上流：pay-to-playモデル
- Zone3- 中流：SMART/中央集権あるいは分散型
- Zone4- 下流：適合性評価への課金

P1	SMARTビジネスモデル - IECとのジョイントビジネスモデルWG (JBMG)	SMART-SG
P2	中流：市場分析 - ISOメンバーの販売のポテンシャル上げが目的 - コンサルタントと市場分析作業中	BMTF
P3	下流：価値をとらえる - 下流の活動を精査 - 用途別ライセンスモデル：Differentiated license model (DLM)パイロット	BMTF
P4	短期的収益増加 - 2026-2027年に対する対応策 検討中	CSC/FIN
P5	長期的なCSのポジショニング及びビジネスモデル - 2024年Q4開始	BMTF
P6	上流：価値をとらえる - 国レベルでのpay-to-playモデル - ISOolutionsの非ISOメンバーへの提供 - 国レベルでのSponsored standard development	未定

議題24.1～用途別ライセンスモデル

<背景>

- ビジネスモデル見直しー「下流の価値を捉える」
- ISOコンテンツの用途別ライセンスモデルに関するパイロットプロジェクトを提案。用途によっては大きな価値（利益）を生み出している
- 一方でISOの規格の価格はページ数で設定。顧客にとっての価値や用途を考慮すべきではないか

<パイロットプロジェクト>

- ISOコンテンツの用途別のライセンス契約を検討
 1. 実施(implementation)
 2. 適合性評価
 3. 研修
 4. コンサルティング
 5. ソフトウェア開発
- パイロット実施計画
 - 2024年10～12月：詳細計画
 - 2025年1～6月：パイロット実施
 - 2025年7～8月：パイロット結果の評価

議題15～ ガバナンスレビュー

<これまでの経緯>

- CSC/OVEの下にガバナンスレビューを実施するためにWGを設置（2024年2月）。前ISO会長が特別アドバイザーとして参加
 - 2階層で実施
 - 2024：理事会のdiversityや有効性、利害抵触、Quick wins
 - 2025：ISOのガバナンス構造 理事会-TMB-TCの関係、政策開発委員会（CASCO、COPOLCO、DEVCO）

<主な進捗>

- Quick wins：すぐに対応できる9項目の提案（規定等の修正や明確化など）
- Diversityに関する提案
 - Competency & Diversity matrix（作成中）
 - 理事会メンバーのノミネーション/投票時の参考
 - 特定の議題審議に外部人材を招く必要性の判断の助け
 - 任期：長い経験や知識に価値があるとし、Gr2-4は再任可とする（総会で承認）
- 理事会-TMB-TCの関係
 - Problem statementを作成中

議題18～World Standards Forum / ISO Companion

<背景>

- ISO会長の提案
 - 世界標準化フォーラム
 - AIを活用したISOコンパニオン

<構想>

- 世界標準化フォーラム
 - 2年毎に地域をローテーションして開催
 - ハイレベルの意思決定者（民間及び行政）の戦略的関与を促進することを目的
 - 2日間のサミットスタイル、200-300名のビジネスリーダー/ポリシーメーカーを招待
 - 第1回は将来の市場ニーズに焦点をあて、KATS主催で2025年12月2-3日を想定
- ISOコンパニオン
 - AIを活用したアシスタントサービス、標準化活動の支援
 - 2025年にパイロット展開を計画

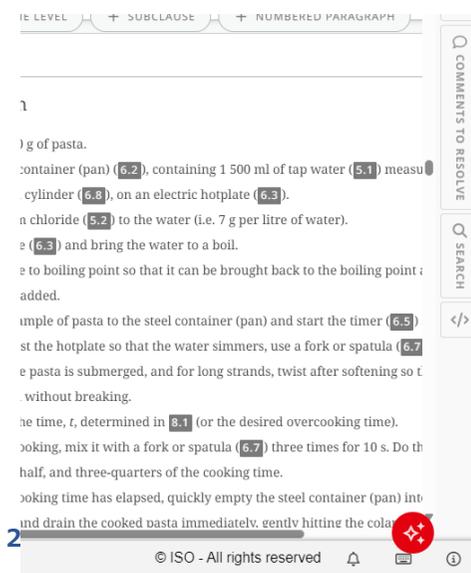
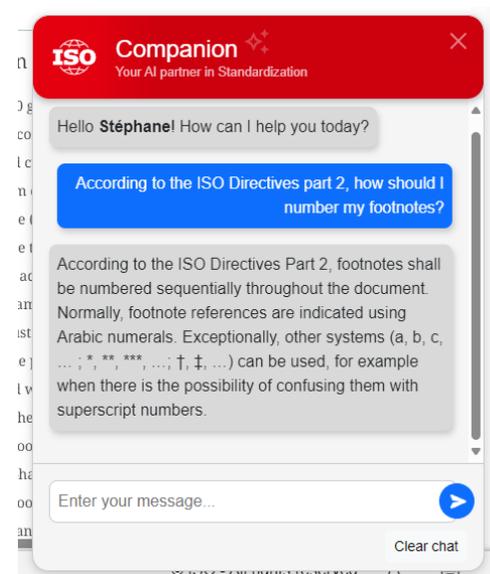
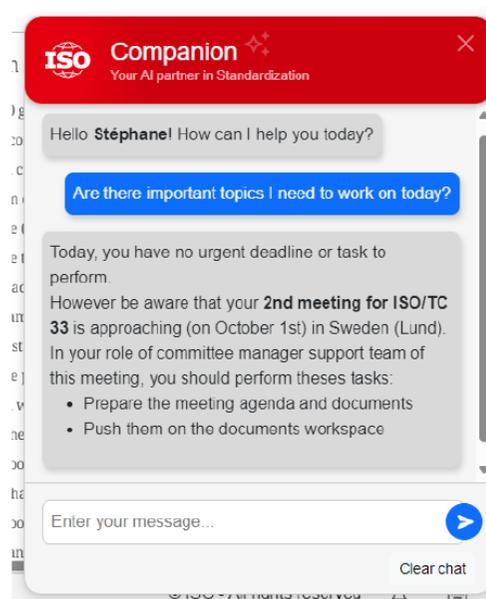
ISO Companion (イメージ)

ISO Companion: Your AI partner in Standardization

AI-driven assistant designed to facilitate standardization activities

Leverages ISO's entire knowledge and deliverables and can access users' unique context to help them be more productive

Available at hand, everywhere



議題23 ～2024年 年次リスク評価

<背景>

- リスク登録簿
 - 17のリスクを特定、Likelihood（発生可能性）、Consequence（影響度）で評価
 - 軽減策と状況を記載
- リスク管理カレンダー
 - リスクの年次レビューを6月に行い、理事会に提出
 - 9月に、理事会が年次レビューを行い、リスク登録簿を承認
- リスク選好(risk appetite)に基づきターゲットとするリスクマトリックスを作成

<概要>

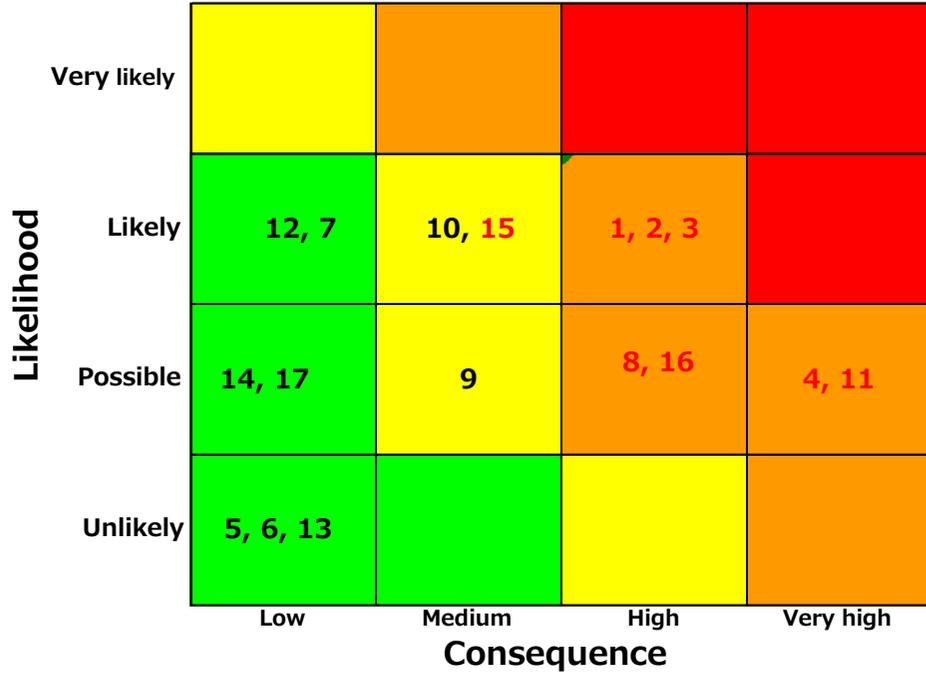
- リスク7（ISO資金調達でのデフォルト）：結果(consequences)を低→中に
- ターゲットに達していない項目 9
2023年：8 2022年：9 2021年：10

(決議55/2024)

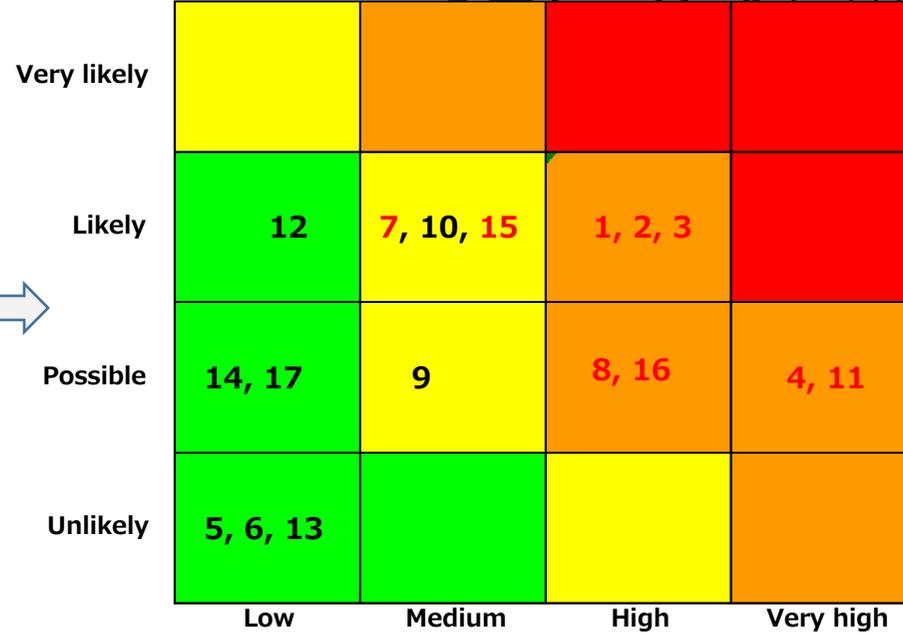
		発生可能性	結果
1	特定の市場ニーズを満たせない	3	3
2	競争の激化	3	3
3	知的財産の喪失	2	3
4	専門人材の不足	2	4
5	欠陥のある規格	1	1
6	罰則及び訴訟	1	1
7	ISO資金調達でのデフォルト	2	2
8	外部団体との非効果的な協働	2	3
9	会員の団結の喪失	2	2
10	効果的でない又は誤解を招くコミュニケーション	3	2
11	外部要因によるブランドの低下	2	4
12	規制上あるいは政治上の変化	3	1
13	職員の不正行為	1	1
14	効果的でない調達及び第三者リスク（外部委託）	2	1
15	完全でない戦略展開	3	2
16	データ/情報の変更（検知/非検知）	2	3
17	重要人物及び知識の喪失	2	1

発生可能性 (likelihood):1-Unlikely 2-Possible 3-Likely 4- Very likely
 結果(consequences):1-Low 2-Medium 3-High 4- Very high

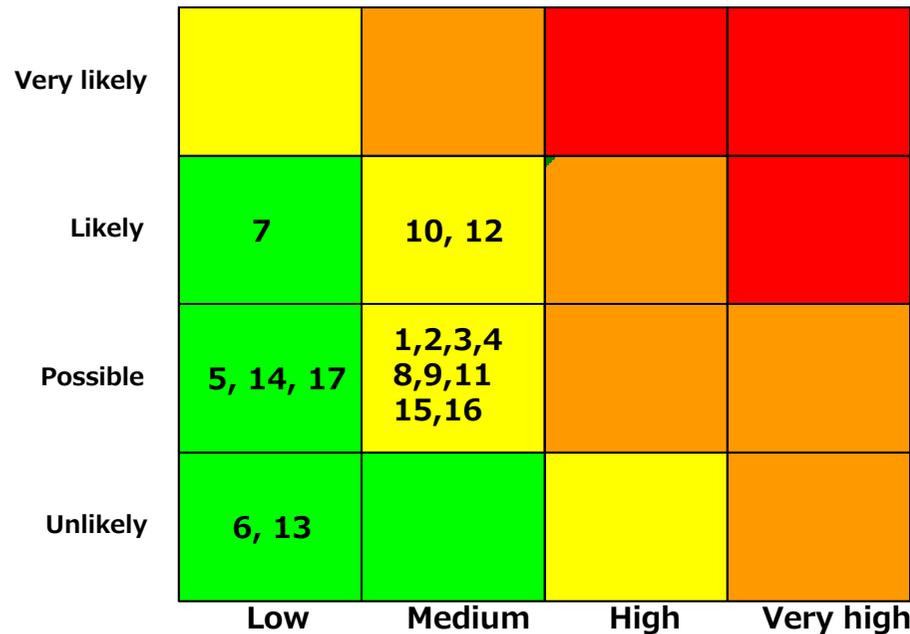
2023年



2024年



赤字：ターゲットに達していないリスク



リスクターゲット

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2025年2月 ジュネーブ（スイス）
- 2025年6月 サンホセ（コスタリカ）
- 2025年10月 キガリ（ルワンダ）

<総会>

- 2025年10月6日-10月10日 キガリ（ルワンダ）
- 2026年9月28日-10月2日 パリ（フランス）
- 2027年9月27日-10月1日 イスタンブール（トルコ）

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系・国際規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp